

ゲートキーパー研修（福井県福井保健所）

【概要】

福井健康福祉センターはこれまで関係団体と連携して、地域住民にとって身近な理容師・美容師や、介護支援専門員などを対象に、ゲートキーパー研修を実施。コロナ禍における全国的な自殺者数の増加を受け、町保健師と意見交換し、町は地域住民と行政とのパイプ役である民生委員などを対象に、センターは広く町民に関わる窓口職員対象と役割分担した。実施するにあたっては町の職員研修とタイアップし、参加人数を「各課2～3名程度」に限定し、健康観察、換気、ソーシャルディスタンスなどコロナ感染対策に留意し行った。

【大綱の分類】

- 2) 国民一人ひとりの気づきと見守りを促す
- 4) 心の健康づくりを進める

【政策パッケージ分類】

- 基本1) 地域におけるネットワークの強化
- 基本2-1) 様々な職種を対象とする研修

【事業実施年度】 2020 年度事例

【事業予算】 10,884 円（2020 年度）

【利点】

- ▼町職員が地域住民の SOS に気づき、声をかけ、連携先を知ることで必要な支援につなぐことができる。
- ▼相談対応をする上で、関係課・機関の役割が明確になり、連携しやすくなる。
- ▼メンタルヘルスに関する知識を習得することで、住民だけでなく職員自身や同僚のメンタルケアにも役立つ。

【実施に至るまで】**町窓口職員を対象にする理由**

- ①様々な相談や悩みを抱えている住民と関わる機会が多い。
- ②対面で相談対応することが多く、相談者の表情・態度等 SOS に気づきやすい立場にある。
- ③町職員として SOS に気づいた後も継続して相談者と関わり、見守ることができる。
- ④研修で得た知識を日ごろの業務の中ですぐに活かしやすい。

計画を立てる上での工夫

- ①住民サービスに支障がないよう業務時間外に実施した。
- ②町職員研修とタイアップすることで、受講の動機づけがしやすく職員が参加しやすい体制とした。
- ③町保健師が町自殺対策計画を説明することで、町の現状や課題、今後の方向性を共有し、町職員としての職責の自覚を持ってもらう。
研修内容がオンライン研修ではなく集合研修が望ましかったため、受講者の人数を限定し、健康チェック、マスク着用、換気、ソーシャルディスタンス、消毒などコロナ感染対策に留意した。

具体的な内容

- ▼研修会は業務終了後、75 分

- ・町保健師による町自殺対策計画などの説明 15分
- ・臨床心理士による講義「SOSのサインを見逃さないために」 50分
- ・質疑応答 10分

【成 果】

▼アンケート集計結果

- ①ゲートキーパーについて理解できたか
理解できた100% 理解できなかった0%
- ②今後仕事を通じてゲートキーパーの役割を担うことができそうか
できる7% できることからやってみたい79% わからない10% 自信がない4%以上から、1回の研修でゲートキーパーとして理解でき、「できることからやってみたい」と前向きな気持ちを抱いたことが伺えた。ただ、「わからない」「自信がない」と回答した者もいたため、対応に困ったときに相談できるようなきめ細やかなフォローアップ体制が必要である。

【補 足】

▼特になし

【課 題】

- ▼受講者が限定的であったため、より多くの町職員が受講できるよう計画的に実施することが必要
- ▼地域住民のSOSに気づき、適切に対応ができるように、受講者の習熟度に応じたフォローアップ研修など継続的な研修が必要
- ▼相談対応を行うことによる精神的な負担を軽減するフォロー体制が必要

【事業種別】	研修実施
【準備期間】	60日
【人 数】	1人
【人口規模】	762,629人（2020年10月1日時点）
【財政規模】	4,872億円（2020年度当初予算）
【自治体負担率】	50%（地域自殺対策強化交付金）
【事業対象】	自治体職員
【支援対象】	地域住民
【委託の有無】	無
【実施主体・問合せ先】	福井県福井健康福祉センター TEL：0776（36）1116 Mail：f-fukusi-c@pref.fukui.lg.jp

【参考資料・文献】

▼特になし